

学ぶ心に火がともるアクティブラーニングとディープラーニング

LTD 話し合い学習法の効果

森 邦昭・鈴木 有美

現在、世の中のおちらこちらで、学ぶ心に火をともしることによって、みずから勉強する自主的学習者、つまりアクティブラーナーを育てる基本技術の進化が求められています。しかし、アクティブラーナーを育てるのがアクティブラーニング、そしてさらにディープラーニングであるとするれば、そもそも、こうした学習に学習者が取り組めば、学習者の学ぶ心にはおのずから火がともることになるのではないかと考えられます。

このような問題関心から、森と鈴木は共同研究を行い、2016 年から 2020 年にかけて、福岡女子大学の研究紀要に 5 編の論文を発表しました。これを一冊にまとめたものが、標題の書物です。本書のタイトルの由来は冒頭のとおりですが、本書の内容が「LTD 話し合い学習法の効果」をめぐる展開しているところから、これをサブタイトルとして付しています。出版に当たっては、福岡女子大学 2020 年度研究奨励交付金（研究 C）の助成を受けました。

第 1 章 対話の書と LTD 話し合い学習法

ここでは、アクティブラーニングとは何かということから考察を開始し、対話授業が有する問題点、チュートリアル意義、看図作文の可能性に検討を加えた結果、LTD は「教授者中心の教育」から「学習者中心の教育」への転換に効果的であることを明らかにしています。この章の内容については、日本協同教育学会編『日本の協同学習』（ナカニシヤ出版、2019 年、71-102 頁）で、LTD の有効性を示すものとして紹介されています。

第 2 章 LTD 話し合い学習法が与える学びの効果

ここでは、LTD による大学での授業を教職課程履修者が受けることを通して、履修者はアクティブラーニングに対する認識をどう変化させるか、そのことが授業への興味や価値観、さらに授業における適応感とどう関連するのかを明らかにしています。この章の内容についても、『日本の協同学習』（83 頁）で紹介されています。

第 3 章 LTD 話し合い学習法の予習方法に関する考察

ここでは、LTD 過程プランの概要をまとめた後で、主として解釈学、脳科学、教育心理学などの知見をもとにした考察を試み、より効果的な予習の提示法を模索しています。この章の内容についても、『日本の協同学習』（75 頁）で、この研究は LTD の 8 つのステップを理論的な側面から再度検討し、その意義を明確にしようとする試みであり、「新たな LTD の展開を促すもの」として評価されています。

第 4 章 読解と解釈学的循環

LTD 話し合い学習法では、テキストの読解がすべての学習の出発点になっています。しかし、出発点として前提されている読解そのものは、そもそも、どうしたらよくできるようになるのでしょうか。この問いに答える

ことをめざして、ここでは、まず読解とは何かを概観し、次に読解を苦手とする人工知能（AI）の特性に言及し、最後に理解するという点における人工知能ロボットと人間の本質的相違について、ハイデガー（Martin Heidegger, 1889-1976）の解釈学的循環の視点から考察することにより、テキスト読解力を絶えず向上させていくことができるために学習者はどうすればよいかを明らかにしています。

第 5 章 ディープラーニングとアクティブラーニング

将棋、囲碁、お掃除ロボット、自動運転……人工知能と呼ばれるコンピュータのプログラム開発が革新的な勢いで進んでいます。従来の人工知能は人間から与えられたプログラムに従った処理しかできない状態にありましたが、ディープラーニングという学習方式が導入されるようになってからは、人工知能は大量のデータをもとにみずから学習できるようになりました。こうした時代の大転換期のなか、ここでは、まず人工知能開発の歴史を踏まえ、次にディープラーニングのメカニズムをまとめ、最後に人間が主体的にかかわることによって成り立つアクティブラーニングとの比較を行うことによって、学習といわれる現象の本質解明に迫る試みを行っています。



「笛吹けども踊らず」という言葉がありますが、教える側が技術のかぎりを尽くしても学ぶ側がそれに応じてくれないと、その努力は水の泡です。LTD では笛吹かずとも踊ることさえあります。教授者の方々にも学習者の方々にも、何かの役に立てることが本書の願いです。

著者 森 邦昭 国際教養学科教授 博士（教育学）（九州大学）
鈴木 有美 国際教養学科教授 博士（心理学）（名古屋大学）

発行所 株式会社 大学教育出版 160 ページ

発行日 2020 年 12 月 25 日

ISBN 978-4-86692-112-9